



関西国際空港 周辺護岸での魚介類の間引き調査について

関西エアポート株式会社は、関西国際空港の周辺護岸において、魚介類を採捕し、調査で採捕された魚介類を水産資源の増大に活用する間引き調査を行うことのお知らせします。

本調査は、漁業関係者の協力のもと、空港島周辺海域の魚介類の生息状況の把握および大阪湾の水産資源環境の向上を目的としています。採捕した魚介類は、生息数や大きさの測定後、水産有用種は資源を増やすため沿岸の護岸域に放流、大阪府がブランド化を目指す高級魚であるキジハタについては、30センチ以下の個体を、大阪湾のキジハタ資源の増大に向けた産卵親魚として大阪府の関係団体に提供します。

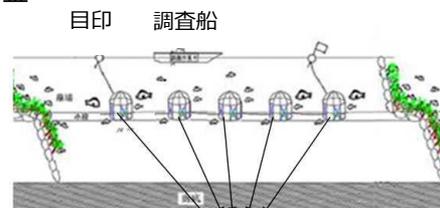
関西エアポートグループは、今後も海域環境向上に向けた取り組みを推進し、周辺環境と共生した空港の発展を目指してまいります。

【調査概要】

- 調査目的：空港島周辺海域の魚介類の生息状況の把握および大阪湾の水産資源環境の向上
- 調査内容：空港島周辺に生息する魚介類を、魚カゴを使って採捕し、種類毎の生息数や大きさを測定
- 調査日程：第1回目：9月28日～10月5日
第2回目：10月5日～10月12日
第3回目：10月12日～10月19日
第4回目：10月19日～10月26日
※天候等により予定を変更する可能性があります。
- 調査実施者：関西エアポート株式会社
- 調査請負者：大阪府漁業協同組合連合会
- 漁獲物（親魚）提供先：公益財団法人大阪府漁業振興基金



○●カゴ設置予定場所 ※各回 12カ所に設置



魚カゴ「中」
直径73cm、高さ69cm、
目合い35mm



カゴの取り上げ



漁獲物の選別測定



漁獲物の放流

※漁獲された魚介類について、キジハタを除く水産有用種（メバル、カサゴ、マダイ、カワハギ、マダコなど）は全て沿岸地先に放流します。キジハタは調査サンプルとして使用するほか、30cm以下の個体を中心に、大半を大阪湾のキジハタ資源の増大に向けた親魚として、（公財）大阪府漁業振興基金栽培事業場に提供し、残りは空港島護岸周辺海域に再び戻します。

※関空周辺海域は大阪府漁業調整規則で水産動植物の採捕が禁止されていますので、特別に許可を得て調査を実施しています。

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社
グループコーポレートコミュニケーション部 パブリックリレーション
Tel : 072-455-2201



関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018年4月1日からは関西エアポート株式会社の100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西3空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/ をご参照ください。

関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号（登記上）	株主	オリックス 40%、 ヴァンシ・エアポート 40%、 その他の出資者 20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港1番	株主	関西エアポート株式会社 100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックスグループについて

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では法人金融、産業/ICT機器、環境エネルギー、自動車関連、不動産関連、事業投資・コンサルティング、銀行、生命保険など多角的に事業を展開しています。また、1971年の香港進出を皮切りに世界約30カ国・地域に拠点を設け、グローバルに活動しています。

今後も、常に新しい価値を創造する強みと専門性を生かし、〈オリックス〉という完成形のない独自のビジネスモデルを基に、企業や人々に活力をもたらす企業活動を通じて社会に貢献してまいります。

詳細は <https://www.orix.co.jp/grp/> をご覧ください。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、欧州、アジア、南北アメリカ大陸の12カ国において53空港を運営しています。総合インテグレーターとしてのノウハウを駆使して空港の開発、資金調達、建設、運営を行うとともに、その投資能力と専門知識を活かした空港運営の最適化、施設改修、環境経営推進に取り組んでいます。

ネットワーク全体で2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするため、2016年から他の空港運営事業者に先駆けて国際的な環境戦略を展開しています。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社JTB、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構